



# NEWS LETTER KUMAMOTO

■ 発行：一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4 番 18 号(熊本市国際交流会館)  
 ■ Publisher: Kumamoto International Foundation (KIF) TEL: 096-359-2121 / FAX: 096-359-5783  
 ☒ pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: https://www.kumamoto-if.or.jp

★CONTENTS★

P1-2 令和 8 年度事業団の事業紹介

P3-4 「平成 28 年熊本地震」から 10 年 振り返り～その 3～

P5 佐藤 寛(さとう ひろし)先生のグローバルセミナー報告

P6-7 JICA 海外協力隊の体験談

P8 エレベーター設備改修工事、賛助会員募集

## 一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 令和 8 年度の事業計画のご紹介

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団(以下、「事業団」と称します。)、熊本市国際交流会館(以下、「会館」と称します。))の指定管理者であるとともに、市民や外国人住民との交流促進や外国人住民の様々なサポート事業を行っております。

近年、少子高齢化の進展に伴う日本人の人口減少が続く一方で、地域における外国人住民は年々増加しており、地域社会の担い手としての役割が一層期待されています。他方、外国人を取り巻く環境は、制度の厳格化や外国人排除の動きなどにより、厳しい状況にあります。事業団では、外国人住民の定住化の進展や地域社会との関わりをの深化に伴い、地域社会と外国人住民をつなぐ役割を一層発揮するとともに、下記ビジョンに基づく、きめ細かな事業に取り組んでまいります。

(ビジョン)

「国際交流会館を拠点に多様な人たちが支え合う多文化共生の地域づくり」を推進するため、以下の 4 つの事業(事業区分)を柱とした事業を展開

- 1 多文化共生社会づくり推進事業
- 2 地球市民育成事業
- 3 国際化推進事業
- 4 文化施設管理運営、まちづくり推進事業



### 1. 多文化共生社会づくり推進事業

「国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていける社会」の構築を推進する。増加する外国人住民への相談全般に対応する「熊本市外国人総合相談プラザ」の運営、多様な日本語学習機会の提供及び日本語学習に関する相談や日本語教室情報を提供する「熊本にほんご教育プラザ」の運営を中心に、誰もが活躍できる地域社会の推進。

#### (1) 多文化共生のまちづくりサポート事業

会館 2F に熊本市外国人総合相談プラザの運営を始め、外国人住民の生活(行政手続き、法律、子育てサポート等)に関する支援事業です

#### (2) 日本語教育支援事業

外国人住民の日本語学習支援に関する事業。熊本にほんご教育プラザにおいて、くらしのにほんごくらぶや、地域日本語教室などを行います



くらしのにほんごくらぶ

- (3) 「外国人のため」の防災事業／ 災害弱者になりやすい外国人住民の防災意識を高める事業
- (4) 外国ルーツの子どもの支援事業／ 親と共に日本へ移住、または呼び寄せられた子供の教育支援に関する事業

## 2. 地球市民育成事業

グローバルな視点から地域社会を理解し、一人ひとりが社会に貢献する意識を育むグローバルシチズンシップ教育を推進。若い世代が自発的に物事を考え、実践できる機会を提供すると共に市民主体の多彩な国際交流活動を支えるボランティア育成を目指す。

- (5) インターンシップ受入事業／ 国内、海外からインターンシップを受け入れる事業
- (6) 地球市民・人づくり推進事業／ 主に高校生を対象とした国際ボランティアワークキャンプに関する事業
- (7) 国際交流ボランティア活動促進事業／ 語学や日本語支援、ホストファミリーなどボランティア活動に関する事業
- (8) 世界をよく知るセミナー／ 海外事情に詳しい講師を招き、海外の情勢を紹介する事業
- (9) 地域国際化推進事業(出前)／ 外国人住民を地域コミュニティ等へ派遣し、異文化理解講座や料理教室を行う事業
- (10) 体験学習受入プログラム(ウォーキングガイド)／ 事業団、JICA、EPO 九州の活動を紹介する事業
- (11) ニュースレターくまもと／ 事業団の刊行物(年 4 回発行)



国際ボランティアワークキャンプ

## 3. 国際化推進事業

異文化や語学を学ぶ講座、交流する機会を提供し、国際化を推進。

- (12) グローバルカレッジ事業／ 英会話や中国語、韓国語、スペイン語など語学講座を行う事業
- (13) 海外情報サポート事業／ 留学やワーキングホリデーについて相談などを受ける事業
- (14) NGO 協働支援事業／ 熊本市を拠点に活動する国際協力活動(NGO 等)を支援する事業
- (15) イヤーエンドパーティ事業／ 外国人住民と交流を行う事業
- (16) 2F 国際交流サポートセンター運営事業／ 会館 2F 交流ラウンジにてイベント等を行う事業
- (17) グローバルワークキャンプ事業／ 大学生や留学生を中心としたワークキャンプを行う事業
- (18) 多文化商店街づくり推進事業／ 観光などで熊本を行う外国人を支援する事業
- (19) 日本文化体験事業／ 外国人住民の着物の着付けや茶道を体験していただく事業
- (20) 災害多言語支援センター事業／外国人住民に対する主に通訳翻訳を担っていただくボランティアを養成する事業

## 4. 文化施設管理運営、まちづくり推進事業

ホールや会議室を安全に安心して利用していただくと共に、施設を活用し文化芸術の振興を行う。熊本市内の観光やイベントなど地域情報を多言語で提供するインフォメーション機能の充実を図るとともに、熊本市が実施する地域の利活用社会実験に積極的に協力することで会館前並びに周辺地域の賑わい創出及び活性化に貢献。

- (21) 会館管理運営事業／ホールや会議室の貸出受付、施設の管理運営に関する事業
- (22) まちなか文化芸術振興事業／熊本を拠点に活動するアーティストと共同で行う文化事業
- (23) フェアトレードステーション事業／熊本市のフェアトレードタウン啓発活動に関する事業
- (24) オープンセンター事業／会館の存在を知っていただくためのまちづくり事業
- (25) 調査・広報・事業推進事業／ フェイスブックやインスタグラムなど SNS を使った広報を行う事業



フェアトレードマルシェ

特に本年度から(2) 日本語教育支援事業「くらしのにほんごくらぶ」について、外国人住民の増加に伴い、学習者の開催ニーズの拡大に対応するため、新たに第 2・4 土曜日の開催を増設。参加者が増えている南区くらしのにほんごくらぶにおいても、隔週開催から毎週開催に増設します。

## 「平成 28 年熊本地震から 10 年」振り返り～その 3～

前号(138号)に続き、熊本地震で被災した経験をもとに外国人のための防災を考える留学生グループ、熊本地震体験プロジェクト(Kumamoto Earthquake Experience; 以下、"KEEP")の創設メンバーで代表のアンドリュー ミッチェル氏の活動をご紹介します。(英文は右記二次元コードから閲覧できます。)



### 「KEEP の活動」

アンドリュー ミッチェル氏(熊本大学特任助教)

2016年の熊本地震が発生したとき、私たちは何が起きているのかわからず、ただ恐怖に震えていました。私たちは熊本に住む外国人居住者でした。混乱し、途方に暮れ、防災訓練も受けておらず、テレビやラジオで流れる情報を理解する手段もなく、この先どうなるのかもわかりませんでした。その経験から生まれたのが、熊本地震体験プロジェクト(KEEP)です。

熊本大学の上野眞也先生※のご協力のもと、私たちは最初のイベントを開催しました。2016年7月26日、熊本県民交流館パレアで行われたワークショップには、日本人と外国人が入り混じった約40名が集まりました。ワールドカフェ形式を取り入れ、参加者が数分ずつ自分の体験を語り、その後、テーブルを移動して新たな人々と話し合うというスタイルで進めました。そこで最も驚いたのは、日本人の参加者も私たちと同じ恐怖を感じていたということでした。日本人はみな災害への備えができており、落ち着いて対処できるものだと思っていました。しかし、熊本を大地震が襲ったとき、私たちは皆同じでした。自然の猛威と、それが日常を一瞬で覆す力に、ただただ怯えていたのです。日本人の参加者もまた、私たちの話に驚かされていました。外国で、訓練も受けないうまま、言葉もわからない状況で災害に遭遇するということが、どれほど過酷なことか、想像したことがなかったと言っていました。参加者全員が、このワークショップをとっても大切な体験だったと話してくれました。自分の経験を語ることで、心の重荷が下りるような感覚があったこと、そして同じ思いをした人がこんなにもいたのだという安心感をいただいたことを、口々に伝えてくれました。このイベントを通じて、KEEPの最初のメッセージが生まれました。「Let's KEEP together(ともにKEEPしよう)」。出身がどこであれ、私たちは皆、熊本に暮らす仲間です。そして誰もが、熊本の復興に貢献したいと願っていました。

イベント後、私たちはメディアに取材を受けるとともに、熊本市国際交流振興事業団(KIF)の八木浩光さんとも話す機会を得ました。八木さんは、KIFの研究者との交流や、全国から訪れる視察者への体験談の共有にKEEPを招いてくださいました。



2017-12 避難所生活体験イベント 神戸(著者は後列右から2人目)

この年、私たちは熊本イスラミックセンターの代表者をはじめ、多くの人々にインタビューを行い、フォーカスグループを実施して、外国人居住者が直面した問題の全体像を把握しようとしてきました。その結果、困難の度合いは日本語能力と、頼れる国際コミュニティが身近にあるかどうかによって大きく左右されることがわかりました。

また、自治体国際化協会(CLAIR)が東京で開催したイベントや、1995年の震災を経験した方々とともに神戸で行われた防災イベントに参加し、熊本での経験と知見を発信しました。私たちが学んだことが、熊本を超えて広く意義を持つものとして認められ始めていることを、そこで実感しました。地震から1周年を迎えた頃、熊本大学の支援を得て冊子を作成し、神戸から訪れた留学生たちに活動報告を行うイベントも開催しました。これがKEEPの集大成になると思っていました。しかし、実際にはKEEPはまだ始まったばかりでした。その後の数年間、KEEPは日本各地にメッセージを届けていきました。東京や神戸でも再び講演を行い、佐賀、鹿児島、そして東京の上智大学などでも発表を行いました。これまで外国人居住者の視点から災害を考えたことがなかった、新たな聴衆に繰り返し届けることができました。宮崎での講演では、外国人が地震時に経験することだけでなく、支援活動にいかに関与できるかについても議論しました。外国人を単なる被害者としてではなく、支援の担い手としてとらえるという視点の転換であり、その後、ますます重要なテーマとなっていきました。NHK 熊本のラジオにも出演し、パンデミックによってオンライン中心の活動を余儀なくされた際も、Zoom やスカイプを使った講演や対談を続け、2018年の地震の余波がまだ続く北海道のコミュニティとも繋がりをもちました。



2017-01 CLAIR 発表(著者は2列目右から2人目)

2022年以降、活動はより実践的な広がりを見せました。JICAのパイロット事業を通じて、ネパール、ベトナム、フィリピン、そしてイスラム系の各コミュニティのリーダーたちと協力し、外国人居住者と熊本県内の災害支援団体との間に実質的なつながりを築く取り組みを進めました。福岡と熊本では、避難所で活動する日本人ボランティア向けに「やさしい英語(Easy English)」ワークショップを開催し、言葉の壁を越えてコミュニケーションを図るための手段を提供しました。また、熊本県美里町を訪れてミャンマー人居住者に直接防災情報を届け、ハザードマップや避難情報の配布も行いました。さらに、熊本地震後の外国人居住者の実情や、災害に強いコミュニティを各地に築くために必要な取り組みについて、全国の研究者への助言も続けました。

早稲田大学から熊本を訪れる学生への発表は、今年で4年連続となりました。熊本市役所の新規採用職員研修にも携わり、日本人と比べて外国人の転入者には行政手続きに関する「ストック情報」が欠けているという現実を伝えました。2024年に熊本で開催された防災推進国民大会(ぼうさいこくたい 2024)でも登壇しました。2026年1月には、熊本県主催のイベントで10か国以上の外国人居住者が集まり、実践的な防災訓練が行われました。3月には、国立阿蘇青少年交流の家で開催された第13回グローバルワークキャンプで基調講演を行い、備えることがいかにコミュニティをひとつにまとめる力を持つかについて語りました。



2025.4 熊本市新規採用職員研修(著者は左奥)

また、ジブチ在住の外国人からインタビューを受け、日本の防災技術がアフリカ各地域の災害対策に応用できるかどうかを探る機会もありました。2年前(2024年)に能登半島地震が発生したとき、多くの外国人居住者が2016年の私たちと同じ問題に直面しました。防災訓練を受けていない、避難所を知らない、どうすればいいかわからない。KEEPの活動が今も必要とされるのは、熊本の経験が特別だからではなく、それが他の人々の学びとなり得るからです。

KEEPはメディアにも積極的に登場しています。外国人居住者に防災の大切さを伝える一方で、日本人に対しては、やさしい日本語や簡単な英語、あるいはジェスチャーや笑顔だけでも、地域に暮らす外国人を支えられるということを伝えています。2024年8月には、NHKワールドとBBCの国際ニュースに取り上げられ、台風接近に際してKEEPが熊本の国際コミュニティへの啓発活動にどのように取り組んでいるかを紹介しました。こうした取り組みが防災意識の普及につながり、自分自身だけでなく、大切な人たちや地域社会を守るための備えへと人々を動かすことを願っています。

KEEPの活動は国際的な場でも発信されています。直近では、2025年にモロッコのラバトで開催された国際社会学会第5回フォーラムで発表を行いました。そして、私たちにとって最も誇らしい瞬間のひとつは、KEEPの講演に参加した慶應義塾大学のインドネシア人留学生が、KEEPの2つ目のメッセージを自国に持ち帰ると話してくれたときのことです。「予測はできない。防ぐこともできない。でも、備えることはできる。」

2016年7月、パレアに40人が集まったとき、これほどの広がりを持つ活動になるとは、誰も想像していませんでした。しかし、私たちの活動によって一人でも多くの人が災害に備え、一つでも多くのコミュニティがつながり、一つでも多くの命が救われるなら——それがすべてです。 ※お詫び:前号138号にて上野眞也先生の表記を誤って上野史也先生としていました。心よりお詫び申し上げます。

## 佐藤 寛(さとう ひろし)先生のグローバルセミナーご報告



佐藤 寛氏(通称:さとかん氏)

去る3月14日(土)、15日(日)の2日間、グローバルセミナーと題し、長年、アジア経済研究所(以下、アジ研)に勤められ、持続可能な開発目標(SDGs)を始め、フェアトレード流通や途上国の現状など世界情勢に精通した、社会開発学舎主宰の佐藤寛氏(以下、さとかん氏と記述)をお招きし、「フェアトレードセミナー」と「世界をよく知るセミナー」～グローバル人材に求められる資質とは～をテーマに熊本市国際交流会館にて、ご高話いただきました。その要点をまとめましたのでご紹介します。

### ○フェアトレードセミナー: 3月14日(土) 14:00~16:00 4F 第3会議室

さとかん氏は、フェアトレードの本質について、現在の貿易では、生産者に渡る利益はごく僅かであり、その不公平さが問題視されている。フェアトレードはこの是正を目指し、適正価格での取引や前払い制度、地域社会に還元されるプレミアムといった仕組みを通じて、生産者の生活改善を支える取り組みであると解説されました。また、フェアトレードは「買い物を通じた国際協力」という側面を持つが、日本ではまだ普及が進んでいない。価格の高さや販売場所の少なさに加え、周囲の理解不足が広がりを見せている現状も指摘されました。さらに、衣料品や資源をめぐる労働問題などを背景に、企業にもサプライチェーン全体での責任が求められています。SDGsの「つくる責任 つかう責任」とも深く関わるテーマであり、表面的な取り組みへの注意とともに、企業の積極的な関与が重要とされました。最後に、熊本が日本およびアジアで初のフェアトレードタウンであることに触れ、その継続的な取り組みが評価された。フェアトレードは地域活性化にもつながる身近な国際協力であり、日常の消費行動を通じて誰もが関われる重要な取り組みであると話されました。

### ○世界をよく知るセミナー: 3月15日(日) 13:30~15:00 6F ホール

さとかん氏が、自身の経験をもとにグローバル人材に必要な視点や姿勢について語っていただきました。同氏は高校時代、「この世から飢えと戦争をなくしたい」という志を抱いたことを原点に、途上国研究の道へ進み、高度経済成長期の日本と現在の途上国の状況には共通点が多く、私たちの過去が今まさに世界で繰り返されていると指摘されました。特に、アジ研時代のイエメンでの経験から得た異文化理解の重要性は示唆に富み、女性のベールやカーストの習慣、イスラムの喜捨(裕福なムスリムが貧困者に対して一定の現金等を施す行為)といった事例は、外からの価値観だけで判断する危うさを教えてくれました。文化は単なる違いではなく、それぞれの社会の中で合理的に成り立った「仕組み」であるという視点が求められると。また、SDGsの本質についても、単なる理想ではなく「地球の有限性」と「資源の再分配」という現実的課題であることが強調されました。私たちの豊かな生活は、途上国の低賃金労働や環境負荷の上に成り立っている側面があり、日常生活と世界の問題は密接につながっています。スマートフォンや衣類、食品といった身近なものの背景を意識することが、グローバルな視点の第一歩となります。さらに、現代の日本はすでに多くの外国人労働者や外国にルーツを持つ子どもたちと共に生きる社会であり、「海外に行くこと」だけがグローバルではないと指摘。国内において多文化と向き合い、共生する姿勢こそが重要と話されました。

最後にグローバル人材に必要なのは語学力以上に「心構え」であると強調されました。好奇心を持って世界を知ろうとする姿勢、自らの思い込みを修正する柔軟性、そして相手を尊重しつつ自分の意見を伝える対話力が求められます。変化を恐れず、自らの考えを更新し続けることが、世界で活躍するための第一歩ですと、熱く語られました。



# 熊本から世界へ ～JICA海外協力隊の体験談～

## 見ず知らずの土地で、“よそのもの”として活動するということ。

JICA海外協力隊は、途上国からの要請をもとに、現地のために活動したい！と希望する方を選考し派遣する、ボランティア事業です。派遣期間は原則2年間。

その間、隊員たちは現地の人々と共に、自分に何ができるのか日々模索しながら活動を行います。熊本からもこれまでに900人を超える人たちが、現地に笑顔を届けるべく活動してきました。今回は、熊本県出身・在住隊員がなぜ協力隊に参加したのか、現地での活動、協力隊で得たものや帰国後の活動などについてご紹介します。

随時個別相談受付中！熊本市国際交流会館2F

【JICAデスク熊本】までお気軽に！▶



### 西村光マリアさん

モロッコ／助産師



幼い頃から母が青年海外協力隊の存在を語ってくれていたのがキッカケです。資格があると強みになるからと、看護師・保健師・助産師過程を修了。日本で5年働いて自国のことを知った上で海外に出ると目標を立て、5年大学病院で働き、休日には助産院に行き、学び、応募しました。

1年目は、要請内容に沿った病院や保健センターでの活動が主でしたが、2年目は、保健省だけでなく教育省や県とコラボして、学校や地域での性教育活動やゴミ教育・ゴミ拾い活動を行っていました。



協力隊の活動を通して1番大切だと感じたことは、「モロッコはモロッコ人が変えていく」です。外から来た私たちが、こんな考え方もある・こんな方法もあると思って、一方的にやっていくのはただの自己満足だったり押し付けにしかならず、モロッコに住んでいる人々が、「ほんとはね」「それいいね」と感じ、自ら行動に移すことでどんどん事が進みました。私たちはあくまでもキッカケにしかならず、長い人生の中で2,3年しかいないので、そこに住んでいる人々がそのまま継続可能な企画を提案しました。私たちはそっと見守り、必要であればサポートすることが大切と感じています。

### 徳久桃花さん

タイ／日本語教育

※熊本県立大学大学院連携派遣



将来、日本語教師になることを目指している中で、海外で日本語教授経験を積むことや、マイノリティとして生活してみることは、大きな糧になるはずだと考え、協力隊への挑戦を決めました。

現地では、第二外国語として日本語を専攻で学んでいる高校生に対して、日本語や日本文化の授業を行っていました。日本人との交流を目的として開催したオンライン交流会ではくまモンにも登場してもらいました。



配属先の課題は、生徒の日本語学習への意欲が低いことでした。そこで、日本の生徒との年賀状交換やオンラインでの文化交流会などを複数回実施し、学んだ日本語を使う機会を設けました。交流の中で見られた、生徒たちのキラキラとした表情は今でも印象に残っています。日本語学習は単に言語を習得するだけでなく、異文化理解を促す教育的側面も大きいことに気づいたことは、私自身にとっても貴重な学びになりました。

## 坂本信一郎さん

### パラグアイ／土壌・肥料



近年、化学肥料の価格高騰により、パラグアイの農家においてはコンポストを活用した低コストの有機肥料への関心が高まっていることを、JICA海外協力隊の募集要項で知りました。



私はこれまで約30年にわたり、ボカシ肥料やコンポストの作成に携わってきました。これまで培ってきた知識や経験を現地で活かし、持続可能な農業の発展に貢献したいと考え、応募しました。

派遣先である国立アスンシオン大学自然科学部環境技術センターでは、大学生を対象に、ボカシ肥料の作成からコンポスト化までの実習指導を週2回実施しました。



また、作成したボカシおよびコンポストの成分分析を行い、その結果について学生が学内で発表する機会を設けました。さらに、研究成果についてはカウンターパートが取りまとめ、科学雑誌への論文投稿も行われました。

帰国後は、八代市の小・中学校における出前講座にて、パラグアイの文化や生活、JICA海外協力隊の活動内容などについて紹介する講演を行っています。また、市が主催する講座や地域の交流活動にも参加し、国際理解の促進や情報交換の機会を広げる活動を続けています。

## 堀真紀さん

### カンボジア／幼稚園教諭



子どもの頃からの夢だった保育士として9年間働いてきました。大好きな仕事でしたが、人の役に立ちたいという思いが強くなり、退職を決意し、思い切って協力隊に参加しました。



現地では、幼稚園教諭にパネルシアターや紙芝居や手遊びなど、日本の幼児教育技術を伝えました。また、子どもたちに衛生教育を行ったり、折り紙や絵の具を使った活動と一緒に楽しんだりしました。



帰国後も協力隊が結んだ「ご縁」は、豊かに広がり続けています。任地で偶然出会ったサーカス学校の子と日本で再会し、公演時に微力ながら通訳として携わったほか、自社農園では実習生の受け入れやカンボジア農林水産省次官、地雷対策センターのディレクター来訪も実現しました。また、OV（協力隊経験者）がスタッフに加わったり、OV松本シェフと新商品を共同開発・商品化したりと、絆も続いています。この大切なご縁を、これからも育みます。

## 弥永真以さん

### インドネシア／環境教育

※熊本県立大学大学院連携派遣



熊本県立大学大学院の高度グローバル人材育成制度で協力隊を知りました。コロナ禍で大学時代に留学ができなかったこともあり、研究と国際協力を同時に経験できる環境に魅力を感じました。英語以外の言語に挑戦できることも後押しになりました。



現地では、地域の小学校を対象に環境教育活動を行いました。自作のごみ分別教材を使い、子どもたちと一緒にごみ問題について考える授業を実施しました。現地職員と行動を共にし、地域の状況やインドネシアの文化をたくさん学びました。



インドネシアで活動する中で、現地の人の温かさを強く感じました。ある時、体調を崩して入院することになりましたが、職場の方が業務時間中にも関わらず看病をしてくれたり、便秘に効くパパイヤをむいて食べさせてくれたりしました。多くの同僚がお見舞いにも来てくれ、「一人ではない」と感じたことがとても心に残っています。人とのつながりの大切さを実感した出来事でした。

## 【重要なお知らせ】令和8年度エレベーター設備改修工事について

日頃より熊本市国際交流会館をご利用いただき、誠にありがとうございます。当館では、老朽化に伴い昇降機(エレベーター)の設備改修工事を実施いたします。ご利用予定の皆様にはたいへんご不便をおかけしますが、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【履行期間】令和8年(2026年)4月1日水曜日から令和9年(2027年)1月8日金曜日まで

① 3号機エレベーター(人荷用) 4月1日(水)～5月22日(金)

② 2号機エレベーター: 7月8日(水)～8月17日(月)

③ 1号機エレベーター: 8月18日(火)～10月2日(金)

※ 上記①,②,③の順で工事となり、実施中以外のエレベーターは通常利用できます。

※ ①の工事期間中、②,③のエレベーターをご利用ください。

※ 場合により誘導係員が配置されます。その際は指示に従い①を利用してください。



## ☆☆ 2026年度 賛助会員募集! ☆☆

事業団では賛助会員を募集しています。私どもの活動にご理解とご支援をいただくとともに、更なる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。会員の方々には事業団の機関紙「ニュースターくまもと」の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。ご協力いただける方はお手数ですが下記連絡先までお問合せいただきますようお願い申し上げます。

《個人会員》 一口 2,000 円 《団体会員》 一口 10,000 円

私たちは熊本市の国際交流活動を応援しています。団体会員のみご紹介いたします(五十音順、敬称略)

一般社団法人熊本市医師会、一般社団法人熊本市造園建設業協会、医療法人城南ヘルスケアグループ、医療法人創起会くまもと森都総合病院  
医療法人博麗会のくち皮ふ科、学校法人開新学園、学校法人君が淵学園崇城大学、学校法人熊本学園、株式会社いけだ、株式会社キューネット  
株式会社くまもとKDSグループ、株式会社構造計画研究所ホールディングス、株式会社スパークリングル、株式会社セイラグロース、株式会社珠郎  
株式会社南栄開発、株式会社 PARA-SOL、株式会社ビーボーン、国保水俣市立総合医療センター、熊本県行政書士会、熊本赤十字病院、熊本日独協会  
熊本日米協会、公益財団法人阿蘇火山博物館 久木文化財団、公益財団法人熊本市シルバー人材センター、社会医療法人愛育会福田病院  
社会医療法人寿量会 熊本機能病院、社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院、大功宅建、独立行政法人国立病院機構熊本医療センター

## ◇◇事業団 SNS のご紹介◇◇

事業団SNSのご紹介 ～事業団が使っている SNS をご紹介します！是非アクセスしてみてくださいネ！～

Instagram		Facebook			X(旧 Twitter)	YouTube	相談プラザ HP
メイン	外国人向け	メイン	外国人向け	相談プラザ			



### 《お問合せ・連絡先》

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4 番 18 号(熊本市国際交流会館)

(休館日)第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

(TEL)096-359-2121 (FAX)096-359-5783

✉ pj-info@kumamoto-if.or.jp

URL: <https://www.kumamoto-if.or.jp>